

ソリューションによる環境貢献

ソリューションの提供を通じてお客様や社会の環境負荷を低減していくために、「環境貢献ソリューション」の拡大にグローバルに取り組んでいます。

基本的な考え方

地球規模で温室効果ガス排出量を削減するには、電力消費を抑えるための取り組みや関連する環境技術の開発だけでなく、ワークスタイルやライフスタイルを大きく変革していく必要があります。このようなイノベーションを実現するには、ICTの普及が不可欠であり、その活用は今後ますます重要になっていきます。

富士通グループは、こうした「ICTの活用による環境負荷低減（Green by ICT）」の観点から、先進グリーンICTの提供をグローバルに推進し、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

2012年度の取り組み

「CO₂排出量削減」「節電」「省エネ」に加え「省資源」提案を推進

2012年度はお客様のニーズの変化に対応し、これまでの「CO₂排出量の削減」「ICTによる節電・省エネ」に加え、「ICTによる資源使用量の削減」もお客様へのICTソリューション提案に盛り込むことを推進しました。

「環境貢献ソリューション」認定の拡大

ICTソリューションの導入は、サーバやパソコンの利用に伴い電力を消費する一方で、ペーパーレス化や人・モノの移動の削減により、オフィスや倉庫スペースを効率的に利用できるという、環境への負荷が低減する側面もあります。

そこで、富士通グループでは、株式会社富士通研究所が開発した「環境影響評価手法」を用いて、ICTの導入による環境負荷低減効果（CO₂排出量削減効果）を定量的に評価し、一定基準を上回る製品・サービスを「環境貢献ソリューション」として認定しています。

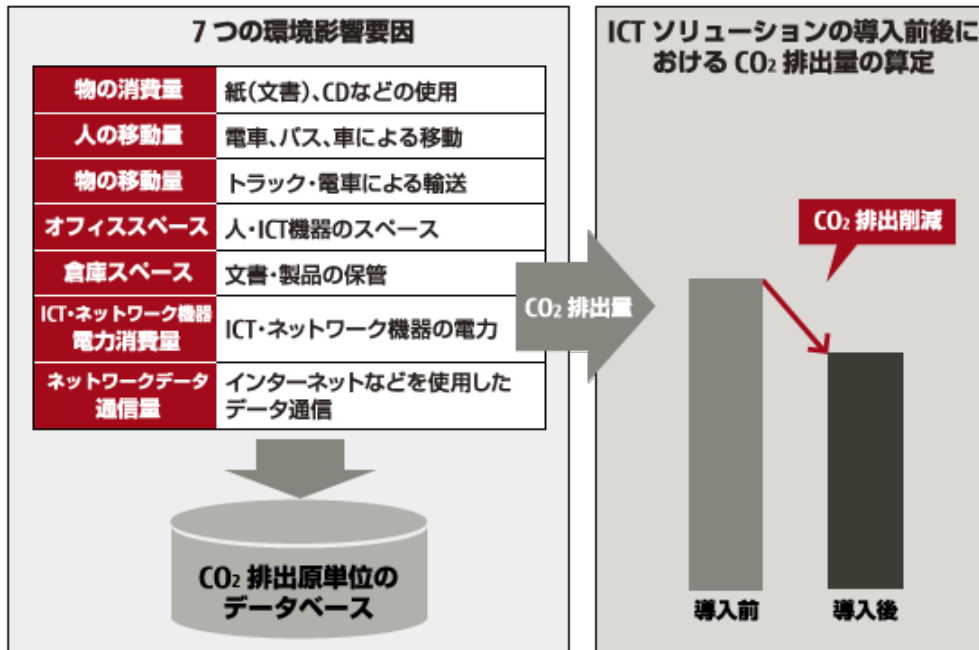
2012年度は、「環境貢献ソリューション」の認定数拡大に向けた支援を強化した結果、新規に43件を認定し、2004年度から2012年度の累計で301件に達しました。2013年度も継続的に認定製品・サービスを拡大していきます。

環境影響評価手法

ICTソリューションの導入による環境負荷低減効果を7つのカテゴリ（モノの消費、人の移動、モノの移動、オフィススペース、倉庫スペース、ICT機器の電力消費、ネットワークデータ通信）に分類して分析。富士通が開発したCO₂排出原単位（CO₂換算係数）を用いてCO₂排出量へと変換します。このCO₂排出量をICTソリューション導入前と導入後について算出し比較することで、削減効果を評価します。

なお、この手法は経済産業省や総務省が示す評価ガイドライン、また2012年3月に国際電気通信連合（ITU）において勧告化（L.1410）された手法に準じた考え方となっています。

環境影響評価手法の概要



- [環境影響評価手法](#)
- [【プレスリリース】 ICT製品・ネットワーク・サービスの環境影響評価手法の国際標準化【総務省】](#)

グローバルへの展開

環境負荷低減に貢献するソリューションをグローバルに展開していくために、2010年度から、海外でも「環境貢献ソリューション」の評価をスタートしました。海外担当者への「環境貢献ソリューション」評価手法のインプットや評価体制の構築を行い、ラオスでの遠隔医療システムなどの評価を行いました。

お客様への環境負荷低減効果の「見える化」を推進

「ICT活用による環境負荷低減」を推進していくためには、お客様にお使いいただくICTソリューションが「どのように」「どれだけ」環境に貢献しているかを理解していただくことが重要です。このような観点から、富士通グループではICTソリューションの環境負荷低減効果を「見える化」してお客様に積極的にご提案しています。

2012年度は、提案件数のさらなる拡大をめざし、3つの取り組みを推進しました。まず、環境負荷低減効果を営業担当者がよりスムーズに提案できるよう「環境提案マニュアル」を作成しました。

次に、提案訴求力を高めるため、全国の営業拠点やグループ会社で営業・SEを対象とした研修会を約50回実施し、のべ1,000人以上が参加しました。この研修会では、ICTソリューションの導入効果を「CO₂排出量」「省エネ」「コスト削減」の観点で計算する環境貢献試算Webツール「EcoCALC」の利用方法や、ICTによる環境負荷低減効果や環境ラベルを提案書に組み込む方法、優れた環境提案事例などを説明しました。

さらに、提案を支援するためのヘルプデスクを設置し、システムの消費電力調査、CO₂削減量、消費電力削減量の試算、提案書作成支援を実施しました。営業担当者がヘルプデスクに連絡することで、さまざまなアドバイスや過去事例を得ることができ、提案スピードの向上につながりました。

これら3つの施策を講じた結果、環境負荷低減の提案が2011年度比1.6倍に増加し、ほぼすべての業種のお客様に対して環境提案を実施しています。

さらに、グローバルでも環境負荷低減効果をお客様への提案に盛り込むことを目指し、2013年1月に、イギリスで「EcoCALC」のパイロット運用が開始されました。2013年度は、「EcoCALC」をグローバルに本格展開していくとともに、お客様に導入いただいた事例を積極的に発掘し、社内外に発信することで、「ICT活用による環境負荷貢献」をさらに拡大していきます。



2013年1月、イギリスでパイロット運用を開始した「EcoCALC」

事例

パブリッククラウドサービス FUJITSU Cloud IaaS Trusted Public S5が環境に関する各賞を受賞

パブリッククラウドサービス FUJITSU Cloud IaaS Trusted Public S5は、サーバやストレージ、ネットワークなどのICTインフラを、富士通のデータセンターからお客様にネットワーク経由で提供するサービスです。お客様は、自社でICTインフラを構築することなく、必要なときに必要な分だけ利用することができます。2010年10月に日本での提供を開始し、2011年6月からはオーストラリア、シンガポール、米国、英国、ドイツの6カ国に展開。グローバルでのエネルギー使用量を大幅に削減し、年間約3万トンのCO₂排出量削減、ならびに省スペース化を実現しています。

こうした「Trusted Public S5」による世界規模でのエネルギー使用量削減への貢献が評価され、2012年10月に「グリーンITアワード2012」（主催：グリーンIT推進協議会、後援：経済産業省）で「ITによる社会の省エネ（by IT）」部門の経済産業省 商務情報政策局長賞を受賞しました。また、同年11月には、「第9回エコプロダクツ大賞」（主催：エコプロダクツ大賞推進協議会、後援：財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）のエコサービス部門エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞しました。

- [【プレスリリース】パブリック型クラウドサービス Fujitsu Global Cloud Platform「FGCP/S5」を6カ国で展開](#)
- [【プレスリリース】「グリーンITアワード2012」において「FGCP/S5」が、経済産業省 商務情報政策局長賞を受賞](#)
- [【プレスリリース】「第9回エコプロダクツ大賞」において「FGCP/S5」が、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞](#)

事例

金融ビジネスグループが「消費電力削減効果・省エネ効果」の提案活動を積極展開

富士通の金融ビジネスグループでは、2011年度にサーバやストレージ、ネットワークなどICTプラットフォームの更新に伴う消費電力削減効果を容易に計算できるツールを作成し、ビジネスグループ内に展開しました。また、2012年度は、ATMや手のひら静脈認証装置などについて、省エネ効果など環境に配慮したポイントをまとめた提案書のひな型をグループ会社と共同で作成し、全国の商談で活用しました。さらに、グループ会社を交えた毎月の定例会でベストプラクティスを話し合い、他部門への展開や提案活動の活性化を図りました。こうした取り組みの結果、環境提案の件数を2011年度比約3.3倍に伸ばすことができました。

・ [環境ソリューション：過去事例](#)

第7期環境行動計画における環境ソリューションの目標

ICTの提供による温室効果ガス（GHG）排出量の削減

第7期環境行動計画においては、ICTの提供によりお客様や社会の温室効果ガス排出量削減に貢献することを掲げ、目標としては、2013年度から2015年度の3年間累計で、「国内で1,600万トン、海外で1,000万トン、合計2600万トンの排出量削減」を定めています。この目標は、第6期環境行動計画の「グリーンICTの提供により、2009年度から2012年度末までに累計で1,500万トン以上のお客様や社会のCO₂排出量削減に貢献する」という目標を、グローバルにさらに拡大していくものです。

ただし、ICTの導入に伴う環境影響を定量的に算出することは、容易ではありません。そこで富士通は、これまでに提供した約300件の「環境貢献ソリューション」事例について、お客様が富士通のソリューションを導入したことによるCO₂排出削減貢献量を評価してきました。さらに、それぞれの環境貢献ソリューションの「原単位」（売上あたりのCO₂削減量）を算出することで、さまざまな排出削減ポテンシャルの測定を可能にしました。この実績に基づき、第7期環境行動計画のグローバルの年間の削減貢献量の算定は、原単位にそれぞれのソリューションカテゴリの年間売上を掛け合わせて行います。

今回の温室効果ガス排出削減目標は、富士通が数年にわたって実績のある算出方法をベースに設定しており、この算出方法が正確性のある結果を導くと考えています。また、富士通は、1、2年後に合意が予定されている国際的な算出方法を定義するためのイニシアティブにも積極的に参加しています。今後も、蓄積した知識や経験をベースに算出方法を見直し、正確性を向上させるとともに今後まとめられる国際標準との整合性を確立していく予定です。

・ [外部団体との連携](#)

サステナビリティソリューションの提供

これまではCO₂排出削減効果に注力した環境ソリューションの提供を目標に掲げてきましたが、第7期では、ソリューションの定義を、昨今のエネルギー事情や社会動向を鑑み、省エネルギー、省資源、環境汚染防止、生物多様性保全といった地球の持続可能性に貢献する範囲まで広げました。こうした社会課題解決に寄与するソリューションの提供拡大を図っていきます。

社員の声

海外ビジネス本部 Global Executive Director Sustainability Alison Rowe

ICTはあらゆる業界や国で普及力があり、私たちの未来や社会のために重要なものです。私たちは、世界的な規模でサステナビリティソリューションを迅速に展開し、2013年4月から2016年3月にかけて2600万トンの温室効果ガス排出量を削減することを目標にしています。私たちは資源とエネルギーの効率を大きく向上させるソリューションを提供し、生活の質の向上と環境保全を可能にします。私たちのソリューションはエネルギー効率トップレベルの製品、安全で柔軟なプラットフォームの展開、世界中で持続可能なデータセンターの提供などを含みます。私たちはお客様へのコンサルタントを続け、お客様の操業やサプライチェーン全体で効率や回復力を達成し、持続可能な未来を形作ることを支援します。



環境ソリューションの提供

お客様のビジネス成長と環境負荷低減の両立を目指して、環境経営の実践と高度化を支えるソリューションを提供しています。

基本的な考え方

環境問題が深刻化する中、持続的に事業活動を行っていくには、ビジネスの成長と環境負荷低減を両立した環境経営を推進していく必要があります。

富士通では、お客様の環境経営を支援するための環境ソリューションを提供しています。お客様の環境活動を評価し、経営の視点から統合的に改善すべき課題を「見える化」。お客様のビジネス戦略に応じた形で環境課題を解決する方策を提案します。さらに、現状の評価や方策の立案だけでなく、実施、課題抽出、不備の改善に至るまで、PDCAサイクルを実行することで、お客様の環境経営の継続的な高度化を支援しています。

• [環境ソリューション](#)

2012年度の取り組み

2012年度は、経営情報や環境情報を集約・加工し、利用者ニーズに合わせて提供する「環境経営ダッシュボード」など、富士通が社内で培ったノウハウを新たにサービスとして提供を開始したほか、環境データ収集から集計、報告書作成までを実現する「FUJITSU Sustainability Solution Eco Track (SaaS型環境経営情報サービス)」をグローバルに展開しました。

事例

社内で培ったノウハウをサービスとして提供

富士通では、先進グリーンICTを社内実践し、その経験・ノウハウを蓄積しています。なかでも、全事業所の使用電力量やCO₂排出量をリアルタイムに見える化・予測するために開発した「環境経営ダッシュボード」は、2011年から社内で本格運用を開始したところ、節電対策や省エネ対策に大きな効果を発揮しました。そこで、2012年度から「環境経営ダッシュボード」のサービス提供を開始し、数社のお客様への導入が決まりました。

また、製品含有化学物質の管理において培ってきた、グローバルな法規制の動向を把握しつつ適切に対応するノウハウを活かし、2013年4月に製品含有化学物質の法規制情報提供サービスを開始しました。これは、株式会社セガ様に導入いただくことが決定しました。

2013年度は、これらのサービスを軸に、環境ソリューションの提供を拡大していく予定です。

- [環境経営ダッシュボード](#)
- [【プレスリリース】製品含有化学物質の法規制情報提供サービスを開始](#)

事例

環境経営ソリューション「FUJITSU Sustainability Solution Eco Track (SaaS型環境経営情報サービス)」をグローバルに展開

欧州では、「EUエネルギー効率化指令 (EU Energy Efficiency Directive)」などの法規制が強化され、企業がより高度な環境経営に取り組むことが求められています。そこで富士通は、国内で実績を重ねてきた環境経営ソリューション「SLIMOFFICE」を「Eco Track」というグローバルブランド名称に統一。2013年4月から欧州ドイツ語圏でのサービス提供を開始し、欧州企業の環境経営をICTでサポートしています。

「Eco Track」は、複数の事業拠点を使用したエネルギー使用量などのデータ収集から、全体集計、報告書作成までをクラウド基盤上で実現するものです。そのためインターネットに接続するパソコンがあれば自由に利用することができ、専門知識も必要ありません。現在はドイツ語と英語に対応していますが、多国籍な企業に活用していただくことを想定し、今後はより多くの言語に対応していく予定です。

2013年3月には、「Eco Track」がドイツのハノーバーで開催される国際情報通信技術見本市CeBIT2013の「The IT Innovation Award 2013」において、「Green IT category」の“Mittelstand” Initiativeを受賞しました。この賞は革新的なICT製品およびICTソリューションに贈られるもので、「Eco Track」は実践的なソリューションであり、特に中堅企業向けの導入や適用がしやすい点が評価されました。

- [FUJITSU Sustainability Solution Eco Track \(SaaS型環境経営情報サービス\)](#)